

令和6年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名 美術 科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none">○クラスにより異なるが、一人一人の取り組み方の差が大きい。一回の指示で構想に入れず、周りを見ないで作業に入るタイプが周りを気にする気配にだんだんとなってきている。○主観を認めてもらおうと頑張る。○準備・片付けは協力的である。	<ul style="list-style-type: none">○課題や単元が変わっても積極的・意欲的に作品制作に応用・活用する姿がみられる。○丁寧さも必要事項だが、完成させる時間配分の力がほしい生徒が見受けられた。○準備・片付けは協力的である。	<ul style="list-style-type: none">○授業に取り組む姿勢は保たれているが、理解力・集中力・想像力の持続が乏しい生徒の作業が遅れがちになる。個別作業でその開きが目立つが、個々の集中力では逆転することもある。○準備・片付けは、協力的である。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none">○図工から美術への意識や感覚の変化は、それぞれの発達段階の差を考慮する必要がある。○課題対象への取組方を通して主体的にかかわっていく能力を育てる上で、見ること・考えることが大きいことに少しずつ感じとらせる指導が必要である。○個別作業では難しく考えがちで作業が止まる生徒を励ましながらか、課題理解を深めさせる必要がある。	<ul style="list-style-type: none">○主体的に取り組む上で、作業内容を十分理解できていない生徒への支援方法として、繰り返し伝える指導が必要である。○課題に対し、創意工夫を美しく表現することに必要な集中力が能力的に伸びている。生徒それぞれが達成感と共に深く見つけ感じ取ることができたかを確認することが必要である。○取り組む時の集中力を切らさず作業を続ける工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none">○時数の限られた中で、取り組む題材・作業の充実感をもたせる指導の工夫が必要である。○制作に対して深く見つけ感じ取る力や想像を形にしていって過程の時間を集中させる必要がある。○授業ごとの目標を持たせ、主体的な取り組みが、充足感になるようにすること。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none">○毎時間の学ぶ内容、制作の到達目標を毎回、明確に伝える。ノートを板書以外にアイディアスケッチにも活用する。○道具の管理は、作業時に安全に行えるよう、毎時間確実に伝え、個々の作業がスムーズに進められるようにする。○作品を通じて各生徒の発達段階や個性を把握し、適切な指導に役立てる。○生徒間の鑑賞を積極的に行い、見て学ぶ楽しさを育てる。	<ul style="list-style-type: none">○全体指導で制作の到達目標を毎回、明確に伝える。○制作や学習を通して、何につなげていけるかを見通すことができるような指導を心掛ける。○授業規律を含め、作業時の注意点や道具の管理等、スムーズな制作に必要な安全の指導を毎時間行う。○各自の作業ペースは、仕上がりに向けて早いのか遅いのかを実感できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">○毎時間の用具の取り扱い方の指導を徹底し、安全でスムーズな作業を常に全員で心掛けるようにする。○ノートを活用し、作業過程を明確に示し、主体的な取組に役立たせる。各自が振り返りながら作業が進められるようにする。○高いレベルで生徒相互の製作過程に関心をもち、より工夫しようとする心が育つよう心掛けること。